

寛斎 寛斎 ○ 汐 郁 齊 龍郁 ○ 女
 太藤 太藤 郁 弥 音 弥 藤 斗 弥 性

ベヽヽヽヽで崩こヽ郁×て倒に大同 他ヽ応斎ヽ郁ヽ下斎すヽ階しら郁同 郁のる山洋
 きそは第ヽす落はつ弥ヽれナキ・のき接藤大弥きに藤る多今段てヽ弥・ 弥声・崎式
 じれい一怯かし圈また 幸ていな同 メや間ヽ丈たや座有と分ヽを古森ヽ同ヽ外郁の
 やな「発え?て外りちヽ雄いフ机・ン!の応夫ちり紗ヽな登本坂部・ 本きは弥屋
 無ら 見た「助。ヽ、のるがの大バ!方接でヽ!込ヽ大大んつ汐寛屋廊をや大ヽ敷
 い、者様 けき電幸ヽ死。刺上広ヽを間す慌ヽむ2広広かて音太か下置
 の斎 は子 はら話雄ヽ体郁さで間ヽ見のかて。8間間悲走ヽらヽ
 か藤 斎で 呼に線のを弥ヽヽ大て方?てヽかか鳴つ22顔夜
 ?き 藤ヽ べヽが死見ヽた金夜ヽヽららして55を
 んさは なこ切体るゆ状森ヽ間ヽ指藤 慌メヽた来ヽ出
 をんい いこらを。つ態幸ヽのさにてイ よるヽす
 はで「。来れ囲くで雄ヽ方をさしてド な。西出と
 じす そるてんりヽヽを驱け出の? 村てヽ
 めよ う唯いでと血5見ヽ寄て服「 清く横
 にね い一るい入を7見る。 来装て 来るの
 疑? うの上るつ流ヽ。 る。 てを。 部
 う「 こ橋に。 てしヽ、 汐音、 、少屋
 とはこ 来て胸

齊郁 齊郁 齊 汐 寛清 寛郁 寛 清 寛清 寛清 汐 清郁 齊
藤弥 藤弥 藤 音 太美 太弥 太 美 太美 太美 音 美弥 藤

「にたな汐 寛かだは郁にてたたな研添汐 郁や夕そこ方私はある音私太い。ああ弥いややあるらへだそ何？究清大つ音弥なそやえ食れこがいの。もて俺無んるだるめめれあ少けう？」成美丈て怯たいうめ、後はに見？」「走出らは視たつろろはん理しだ言果夫しぇち。よろいで、入金たつ部てれしもてみつよた由怒う私をそだやてあ。よやすいつ森んて屋行ね部てねんてがもつこを横うかがそる第、つてをで部にくえ屋汐な言一言てと疑取いらみ私れと一私頃来手す屋戻にこ音天つ番わじつりえ、込じぞす、はのるで。にる汐戻のだ文た怪ずそやてきば落むやれれ彼話の示は戻音る中つ觀つしにんなるれおち。なをば女でをじる、。にて測てい大ないわた前着清い顔、にす」め。立こ人、部、と学こがけつ、い美。を私はかこに室ちん殺犯だ犯思をと、？て昔て、私見た動？の出内上なし人つ人う急言事怒金、汐じ合機方てはが所がのたはけにう実つ森音やわのがと行静りにい可んこど中んをて先になせ誰な一かかなる能だの「退だ言た生寄いるかい緒れにん性。中しつよにり」。

| 郁寛 弥太 | 郁寛 弥太 | ○ | 郁 弥 | 齊郁 藤弥 | ○ | 郁寛 弥太 | 郁寛 弥太 | 郁寛 弥太 | 郁寛 弥太 | ○ | 郁 弥 |
|---|---|---|--|---|---|----------|----------|----------|----------|---|--------|
| 怯寛 いに 郁 たい 郁 同 え太 嘘 行 な 金 齊 弥 お ハ た 弥・ た つ つ 森 藤 い サ が 同 | て 郁 齊 さ て 齊 × 齊 つ か なの の に 郁 同 行 弥 そ 藤 れ い す 遅 藤 藤 て は ? へ ° 声 い 声 夕 お 弥・ く う て て い か 、 き い 齊 死 い 食 い 同 | 3 人事 | | | | | | | | | |
| 様驚くて 子いなな をた 。い 見よ 齊 。 せう 藤 倆 るに さは 。齊ん 、 清藤がず 美を目つ 、見撃と 自るし部 分。て屋 の齊るに 後藤んい ろ、だた | 先 さ 鍵 、 ミ 急 入・ 生 ん を ど を い つ 同 と に 見 う 持 で て・ 一 鍵 せ や つ 立 来 中 緒 を 、 つ て ち る 、 に 倆 て 郁 上 ° 夜 大 り 入 弥 が 寛 ° 広 た つ に り 太 間 ° て 向 、 、 に お 来 け 机 椅 行 前 た 、 に 子 つ 、 ? 置 に た 夕 い 座 ら 食 て つ し 後 い て | ° 鍵 で 郁 ま : ま つ 鍵 小 ま ° で す 弥 し ° せ た を 走 す 一 ド か に た 監 で 持 × り 回 ア ° 鍵 ° 視 ° す つ で の 管 を あ を 力 管 ね て 一 回 理 室 開 し 渡 メ 理 ° 走 に 向 か う け が す ラ 室 つ て 来 る と ° の が 鍵 が あ 。 う 映 か う 。 郁 ご 像 な る 。 弥 ざ も り 、 い 全 荒 入 ま て 破 つ す さ 壊 」 | 藤 に 嘘 か 僕 後 、 ド 、 に た つ ら は に 開 ア 寛 く け 開 づ 大 け を 太 こ な ° け つ 広 ろ ノ の の い 僕 ろ と 間 ° ツ 部 部 は ° 部 お ク 屋 屋 の 絶 目 屋 行 前 し 、 対 撃 に つ 、 前 ° う に 情 い た 金 開 報 た ん 森 け も ° だ 先 な あ ろ 生 い る ? と か ら 一 緒 | 部 を 屋 聞 か い ら 出 て ま 行 く よ | | | | | | | |

齊
藤

齊寬
藤太

寛郁
太弥

寛郁寛
太弥太

寛郁寛
太弥太

寛 郁
太 弥

齊で驚齊はみは紗のをハ弥寛郁近郁る握郁んに
藤すあい藤なた何我もおに付見サ「太罪弥づそ落お弥だ俺や近リ弥俺でお斎
かなた「かかだ故々う前ハいるミ揉大を「いれち前ろじめづ直じ「前藤
倒?た表自つつ?だ一だサたとをみ郁声重歩た以着かど!やろくし寛や急なを
れ」が情分たたこけ人つミナ「刺合弥でねみら上げ?ん」な。な「太なにん生
る犯をのんの何でのたをイ清すいのるを刺近。どいど。にい中だか
。人すおで世故す女の向フ美に方あな止づ落おん。う俺歩。退ろせ
れる腹す界な性かけを「郁なに」めかくち前寛
す。を。をんも:る持倒弥り走」ずらな着な太
。ナ。こ去だ死」。つれ、「、つ
あ。イ。のる?にてて倒寛て太!俺てか近
な。フ。世前まいいれ太行に」をハ?づ
た。で。界に動しるるる、「く
の。刺は混機た。。郁。
動機す私沌は。寛齊寛弥寛
は。向が何残太藤太の太
寛き見だる、「、胸と
何太でて?の有血前に郁